



東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京コミュニティーセンター内 〒186-0002東京都国立市東1-4-20-102

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

ワイズの信条

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにY M C Aに尽くそう
1. 世界的視野をもって国際親善を図ろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
1. 会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてY M C Aの活動を支援する
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる
5. 健全な交友関係を作り出す
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

【2022～2023主題】

国際会長 Samuel Chacko (India)

主題: "Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT"

「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」

スローガン: "BEYOND SELF and BE THE CHANGE" 「自己を超えて、変化を起こそう」

アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen (Taiwan)

主題: "Elegantly Change with New Era" 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

スローガン: "Doing It Right Now" 「今すぐ実行を」

東日本区理事 佐藤 重良 (甲府21)

主題: "Let's act now for the future" 「未来に向けて今すぐ行動しよう」

スローガン: "Do something for someone and have an enjoyable club life for yourself!"

「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを!」

あずさ部長 後藤 明久 (富士五湖)

部長主題: 『ワイズへの参加と交流を楽しもう』

副主題: とにかく参加しよう、リアルとズームで行動し発信しよう

東京武蔵野多摩会長 中村 吉孝

会長主題: 「未来に向けて、まずは会員増強から」

THE Y'S MEN'S CLUB
TOKYO
MUSASHINO TAMA



東京武蔵野多摩
CHARTERED 1983

2022年

11月の聖句

「先祖たちのなきがらは安らかに葬られ、その名はいつまでも生き続ける。」
シラ書〔集会の書〕第44章14節

11月例会の予定

強調月間: 100周年祝賀、BF

日時: 11月9日(水) 19:00～20:40

会場: 西東京センターおよびZoom
(プログラム)

司会: 小林 (会場準備: 宮内、中村)

* 食事

* 開会挨拶、点鐘: 中村会長

* 聖句朗読・説明: 江夏

* ゲスト、ビジター、メンバー紹介

* 卓話 加納 昌枝氏

「北海道YMCAチャイルドケア

プログラムの紹介」

* 連絡、報告、にこにこ

* 閉会挨拶、点鐘: 中村会長

10月例会報告

出席者	8名
在籍者	9名
メーキャップ	0名
出席率	89%
ゲスト(リーダー)	1名
ビジター	1名
メネット・コメント	0名

* 11月のハッピー・バースデー
該当者なし

ファンド関係

にこにこ	先月度	累計
にこにこ	4,500	18,800
2次会にこにこ	2,203	0
メルカリ	870	4,455

IBC

Tsim Sha Tsui Y's Men's Club (香港)

Seoul Han Yang Club (韓国)

DBC

神戸学園都市ワイズメンズクラブ



ワイズメンズクラブ紹介ページ



東京武蔵野多摩クラブWEBページ



Facebookページ

【2022-23 クラブ役員】

会長	中村 吉孝
副会長	小林 文彦
書記	山口 直樹
会計	宮内 友弥

ボランティア活動について

板村 哲也

ボランティアという言葉、活動は、日本では1970年代から一般に知られるようになり、1990年代、特に阪神・淡路大震災（1995年）以降急速に広がった。社会福祉協議会の統計によれば、1980年4月に16,162団体、1,603,452人であったのが、東日本大震災後にピークとなり、その後少し減少したとはいえ、2022年4月には175,046団体、6,677,675人と、42年間に夫々10.8倍、4.2倍になっている。

ボランティア活動は、一般的には自発的な意志に基づく活動で、現在文部科学省では「報酬を目的としないで、自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉増進のために行う活動」と、定義している。

ボランティア活動は、一般にポジティブな面のみが美しく語られることが多いが、根源的、本質的な矛盾や限界、ネガティブな面も含んでいる。

それはボランティアという言葉がよく示している。英語のボランティア（volunteer：志願者、志願する）の語源は、ラテン語の動詞volō（ウォロ）（英語でI wish、日本語で「私は望む、願う、意図する」）である。

では、自発的に、自分の意志で行うことは何か。自分の好きなこと、やりたいことである。自分が納得することである。やる程度も自由である。嫌いなこと、いやなこと、納得しないことはしない。価値観に合わないことはしない。社会にとって、あるいは組織にとって必要なことであっても、いやであればやらない。やるなら金（報酬、対価）をくれ、或いは金をもらってもやらない、利己的である。

会社、自治体、公共団体等有給の団体（以下会社等）なら、給料・報酬をもらう以上、個人的にはしたくなくても、必要な業務、活動をしなければならない。拒否するなら、降格、左遷、解雇あるいは辞職となる。会社等が必要とする知識や技能が無ければ役立たず者である。ボランティア団体では、私は知識や技能を持っていません、できません、しません、でも通る。そういうことを求めない緩い活動がボランティア活動かもしれない。ボランティア団体では、約束・契約ではなく無償であるため、何事にも強制力が働かない。

会社が、自社はこの製品を作りたいのだと、自社の好きなものを製造しても、それを買うメリットがなければ、誰も買わない。需要・ニーズが無ければ会社は倒産する。ボランティア活動は、自分のしたいこと、していることが必ず社会のニーズ、時代のニーズに合っているか、もっと素晴らしい活動をしている団体、個人はないか、など存続に関わる厳しい審判を実感しにくい。採算、生産性といったものがないので、危機感がなく、自己満足で終わってしまう。

次に、報酬・対価を求めないと言っても本当にそうであろうか。金銭的対価はなくても、社会に役立っているという評価は対価として必要ではないか。

ネガティブな面は団体の外側に対しての活動でのみならず、内部の活動でも起こり得る。組織が大きくなればリーダーが号令をかけても自分は嫌だ、考えに合わないということではやらない。いわゆる笛吹けど踊らずである。強制力が働かない。人にやってもらうのは良いが、自分はやりたくない。それで通る。個人個人の自覚を待つしかない。会社等ではありえない。ボランティア団体では顕著には現れないが、いつか団体が弱体化し消滅してしまうだろう。組織のニーズを無視して個人のニーズを優先して組織はどうなるか。

ボランティア活動は利他といいながら利己的な性格を持つ。強制力が働かず、活動およびその発展、向上に限界がある。どこのボランティア団体も抱えている問題であろう。ポジティブな面のみならず、ネガティブな面もわきまえて取り組んでいく必要がある。

母（生きていれば107才）が私の若い時に時々言っていた。「人間は自分がしたいことばかりやっていれば良いというものではない。したくなくてもしなければならぬこともある」。ワイズの信条の一つ、「義務を果たしてこそ、権利が生ずることをさとうろ」とどこか通じるところを感じる。

<卓話者紹介>

北海道YMCA 加納 昌枝 氏



主な略歴

2000年10月 公益財団法人北海道YMCA 入職
YMCA英語・スポーツ専門学校ライフスキルラーニングコース 配属
2009年10月 「特別支援教育×キャリア教育」東洋館出版社 石塚謙二編著 共同執筆
2017年 3月 ライフスキルラーニングコース閉講に伴い同校 英語コースへ 配属
2022年 4月 チャイルドケアセンターへ異動
チャイルドケアセンター統括（幼稚舎副園長）

あずさ部部大会 & 富士五湖クラブ20周年記念例会

板村 哲也

日時：2022年10月15日（土） 11:00～15:10

場所：忍野村 「いちい亭」

ホスト：富士五湖クラブ

当クラブ参加者：中村、小林、山口、宮内、渡辺、板村（6名）

部大会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となっていました。3年ぶりで開催されました。14クラブ78名および演奏者の家族3名、計81名が参加しました。佐藤重良理事の祝辞、中田純子山梨YMCA総主事の祝辞が述べられ、八王子クラブと甲府21クラブにIYC参加費補助金贈呈が行われました。

アトラクションでは富士吉田在住で地元を中心にライブ活動をしている尾崎浩・時恵夫妻によるアコースティックギターの弾き語り「フォークデュオ」の演奏が行われ、懐かし曲の数々が会場に流れました。

記念写真撮影を挟んで、富士五湖クラブ20周年記念例会が行われました。宴席は、参加者が新しい知り合いを作れるようにと、クジ引きで決められました。

オープニングでクラブの20年の歴史が映像と原副会長（元理事）のお話で紹介されました。アトラクションとして、再度フォークデュオの演奏があり、お楽しみタイムで抽選会が行われ、ハッピーバースデー、アピールタイム（第26回東日本区大会、第3回東西日本区交流会）が行われました。

久しぶりの大人数での和やかな会合で、改めて親睦を深めました。

後日報として、フォークデュオの尾崎時恵さんが、楽しい雰囲気になれ、クラブに入会されることになった由です。おめでとうございます。



10月例会報告

10月12日(水)19:00～21:00

出席者：中村、伊佐(Zoom)、板村、小林(Zoom)、宮内、山口、渡辺(Zoom)、出沼

ビジター：並木真(東京八王子)

本日の卓話は、昨年の東京オリンピックにスタッフとして参加された高梨淳子さんより「アスリートへの飲食提供：Tokyo2020組織委員会飲食サービス部での経験」との題でスピーチをしていただいた。高梨さんは管理栄養士で全日本女子バレーボールチームのスタッフとしても活動されていたなど、様々な経験を持たれている。今大会では食全体のコーディネイトを担っていたとのこと。

今回は、オリンピックの準備から本番まで、長い間現場に関わられた方から、私たちにはほとんど見えないオリンピックの“食”のお話をいただいた。大会の概要から、計画時及び実際の大会開催中の出来事を現場の視点からの具体的な話を聞かせていただいた。

全部で250万食、1日4万5千食という、とてつもない食の提供、それもオリンピック・パラリンピックのアスリート及び関係者への提供という、非常に幅の広い多様性をまさに直接こなされた方のお話であった。キーワードとして、「多様性」を感じた。オリンピック・パラリンピックは世界中の様々な国から参加し、そのため宗教・人種・競技内容への配慮、もちろんアレルギー、食品ロス、食に関する考え方の違いなど、まさに多様性の集約の場であったとのこと。また、コロナの影響で1年延期、無観客(突然の決定)など様々な外的な要因にも振り回されたとのこと。これらの多種多様な問題への対応を短い時間だったため、ほんの一部お聞きしたのであるが、大変さは十分感じ取れた。その中で、日本食はかなりの人気であったこと、ごみ処理などは評価が高かったなど、うれしい話も伺えた。

東京YMCA「インターナショナル・チャリティーラン（らくらくウォーク ～個人参加～）」

中村 吉孝

チーム参加できなくても「障がいのある子どもたちを応援したい」「一緒に歩きたい」との主旨に賛同し、「チャリティーラン（らくらくウォーク）」に夫婦2名で個人参加しました。期間は2022年10月15日（土）から10月22日（土）までの8日間。参加者は370名以上。スマホ用歩数計アプリ「RenoBody」をDLし、初日はちょうどあずさ部大会の移動があったので、会場までの途中駅でバスを下車して5 km程を徒歩で移動。その後も、できるだけ移動行程を徒歩にして、8日間で合計で77,000歩、途中参加のカミさんは3000歩と、普段よりはかなりよく歩くことができました。アプリはイベント後もスマホに残したまま、ウォーキングを継続中です。

DBC（神戸学園都市）クラブ訪問

渡辺 大輔

2022年10月6日、大阪の出張に合わせてDBCクラブの事務例会へビジター参加してきました。西神戸YMCAでは、ワイワイまつり（バザー、抽選会など）が10月に開催される予定で、今後もチャリティーランや、クリスマスなど、イベントが何年かぶりに再開しているそうです。2023年4月または5月に合同例会を予定しようという話になりました。例会後、行きつけの二次会会場がコロナの影響で移転してしまい、新しい二次会会場での懇親会となりました。

<東京YMCA便り>

出沼 一弥

<東京YMCA便り>

▼10月3日「早天祈祷会／100年記念交流会」

1922年10月にはじまった「早天祈祷会」が100年を迎えたのを記念して、山手センター及びオンラインのハイブリッド形式で開催し39人が参加。堀口廣司氏（学校法人東京YMCA学院長）による奨励、齊藤實氏（元東京YMCA副総主事・YMCA史学会理事長）より歴史資料や写真を交えながら、100年の歴史を振り返る時間を持った。

▼ウクライナ支援募金

第1期（開始～4月）、第2期（5～8月）合わせて11,238,924円が寄せられた。東京YMCAはウクライナYMCAの行う子どもたちをケアする活動などの支援として2回にわたり合計\$30,000を送金。

12月14日には、ウクライナYMCA総主事他から現地の様子や支援活動について聞く「ウクライナ支援報告会」をオンラインで開催する予定。

▼今後の予定

○11月20日 「ソシアス2022」 オンライン

講演：沖縄復帰50年と平和について（川平朝清氏 元NHKアナウンサー・昭和女子大学名誉教授）

○11月17日「YMCA・YWCA合同祈祷週礼拝」

会場：在日本韓国YMCA及びオンライン 説教：増田琴牧師（日本基督教団経堂緑岡教会）

○11月25日～27日「第22回日本YMCA大会」

会場：日本YMCA同盟東山荘（及びオンライン）

○11月27日「山手センター70周年記念 OBOG・現役リーダー会」

会場：山手センター

今月および今後の行事予定

11月 9日（水）19:00～	11月例会
11月23日（水）19:00～	11月第2例会（Zoom開催）
12月11日（日）17:00～	12月忘年例会（カフェ ネージュ）
12月21日（水）19:00～	12月第2例会（Zoom開催）
1月 7日（土）時間未定	在京新年会（1月11日から変更）
1月25日（水）19:00～	1月第二例会（Zoom開催）
2月4～5日	東西日本区交流会（神戸）
2月15日（水）19:00～	2月例会（2/8から変更） 歯科医師 堀清貴さん「地域での歯科診療の話題（仮題）」
2月22日（水）19:00～	2月第二例会（Zoom開催）